

“安心グッズ”を作って自傷を無くせた12歳自閉症Y君の経験

ある施設の短期入所療育を受けていたY君は、療育プログラムに沿った課題を順調に達成して高い評価を受けていました。ところが、退所2日前に左手拳で左こめかみを殴打する自傷が始まり、母親が迎えに行くと顔が腫れ上がっている状態でした。

1週間後当院を受診しました。診察室に入って来た時、母はY君の左手首を両手でしっかりと握っていて、親子手と手を携えて、というふうに見えましたが、Y君の表情は何かにおびえているように不安気でありました。筆者と母親が話している間、母親の手が緩んだ途端、Y君の左手は素早く顔面を殴打していました。家では、父母のどちらかが常にY君の腕を握っていないと殴打が生じる、とのことでした。

筆者は、Y君の今までの発達の様子を聞かせてもらった後、母親に以下のように説明しました。「この子はがんばり過ぎちゃったんだ。一生懸命課題を達成して疲れちゃったんだ。ブツンしちゃったんだ。だから、『僕、こんなにがんばって来たよ。さびしかったんだよ。僕の気持ち分かってよ。もっともって分かってよ。』と言いたがってるんだ。自傷はお母さんに自分の気持ちを分かち合ってもらうための止むに止まれぬ切ない行動なんだ。だから、しっかりと握っていてくれるお母さんの手の力が抜けると、もっと僕を分かち合ってもらって、っていう気持ちを込めて目立つ行動、つまり自傷しちゃうってことなんです。」と。

母親は筆者の解釈を受け入れてくれましたので、以下の提案をしました。「お母さんが手を握って居てくれると、この子は安心を感じるんです。お母さんの握り方が緩むと、この子は安心が逃げて行っちゃうかのように思ってしまう。自傷するとお母さんの手に力が入って、安心が戻ってきたように思うのです。だから、お母さんが手を握っていてくれなくても安心に思える“安心グッズ”を作れば、自傷は無くなるはずです。」と。

次いで「握っているお母さんとY君の腕に紐を巻きつけて、『ほら、お母さんとY君は紐で繋がってるよ、一緒だよ、良いねえ。お母さんの手の力がちょっと抜けても、ちゃんと繋がってるから大丈夫だよ、安心、安心、大丈夫！』と声掛けして、Y君には握られていることよりも紐で繋がっていることの方が良いことと思えるように、仕向けて下さい。紐で繋がっていることが安心の元だという事をY君に理解してもらえたら、紐を段々長くして、お母さんとY君の間の距離を長くして下さい。そうすれば、お母さんは付きっ切りでなくても良くなり、お母さんも楽になるでしょう。」と。

10日後、母親からは、平手で叩くようになり頻度は7割に減りました、笑顔が見られるようになり、紐の距離も長く出来るようになりました、と良好な報告がありました。

2ヵ月後には顔面を叩く行為は無くなりました。その後、Y君が落ち着かなさそうにしてる時に、母親が紐を持たせると落ち着くようになったとのことでした。

紐が“安心グッズ”になりました。

Y君は“安心グッズ”を作れば自傷も無くすることができることを教えてくれました。